

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	がんプロフェッショナル養成プラン		事業開始年度	平成19年度		作成責任者
担当部局庁	高等教育局		担当課室	医学教育課		医学教育課長 新木一弘
会計区分	一般会計		上位政策	「個性が輝く高等教育の振興」 「大学などにおける教育研究の質の向上」		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	がん対策基本法第14条		関係する計画、 通知等	がん対策推進基本計画(平成19年6月閣議決定) 新成長戦略(基本方針)(平成21年12月閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	がんは、わが国の死因第1位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重要な課題となっていることを踏まえ、国民に対する最適で安心・安全ながん医療の提供に資するため、大学院における教育環境の整備充実を行い、がん医療にかかる幅広い知識や高度な技術を有するがん専門医療人の養成を図ることを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	がん医療に関する幅広い知識や高度な技術を有する、放射線療法や化学療法等のがん医療を専門的に担う医師、看護師及び薬剤師等の医療人の養成のため、国公私立大学を対象に、大学院医学研究科等においてその養成を図る取組に対して教育環境の整備充実にかかる支援を行う。(補助率:定額補助)					
実施状況	平成19年度に18件を選定し補助金を交付。(5年間の継続支援事業) 現在、94大学(国立43大学、公立19大学、私立32大学)が連携参画。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	1,402	1,902	2,002	2,002	1,951
	執行額	1,596 [※]	1,900	2,001		
	執行率	113.8%	99.9%	99.9%		
	総事業費(執行ベース)	1,917	2,106	2,243		
自己点検	支出先・ 使途の把握水準・ 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、各大学における支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。 ・また、必要に応じて各大学に対する現地調査を実施したり、実績報告書等のみでは確認が不十分な場合に契約関係書類を別途個別に提出させる等により、各大学における支出先・使途の把握を万全のものとしている。 ・さらに、第三者委員による事業の進捗状況等について確認・評価を行っているところである。 				
	見直しの 余地	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年6月に、中央教育審議会大学分科会大学行財政部会において、国公私立を通じた大学教育改革支援プログラムの事業の在り方について検証が行われ、「明確な教育目標、修得すべき知識・能力の体系を備えた学位プログラムを提供する取組への支援を強化」とともに、「社会的要請が高く、大学教育政策として優先順位が高いものを分かりやすく提示し、重点的に支援」、「他の競争的資金等との目的の違いを明確化すること」、「教育取組の成果・効果を図る指標の明確化」や、「成果や進捗状況を踏まえ、適宜、見直しを行う仕組みの構築」等が求められたことから、その見直しの方向性に即した事業の推進を検討して参りたい。 ・各大学の取組内容・成果について、文部科学省や大学のホームページへの掲載、各種フォーラムの開催等を通じて、全国の大学へ普及・展開を図っているところである。今後は、本事業の成果報告書の取りまとめや、検証を通じて、我が国全体としての大学改革に資するよう更なる成果の普及・展開等に努めて参りたい。 ・第三者委員による評価を踏まえ、必要に応じてより多くの成果を引き出すため効率的・効果的な予算配分への反映を検討したい。 				
率 化 予 算 所 見 ・ 効 の 効	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、がん医療に関する幅広い知識や高度な技術を有する、放射線療法や化学療法等のがん医療を専門的に担う医師等を養成することを目的とした国公私立大学に対する補助事業であり、事業の在り方の観点から検証を行う。</p> <p>2. 所見：本事業については、昨年度の事業仕分けにおける「大学の先端的取り組み支援」等の評価結果や大学行財政部会での議論等を踏まえ、事業内容・成果等を検証し、その成果の普及に一層努めつつ、対象箇所数の絞り込みや経費の効率化などにより、予算を縮減すべきである。</p>					
補 記	※重点的な支援の観点から、年度中に194百万円を流用増している。					

文部科学省
2,001百万円

諸謝金 0.2百万円
職員旅費 0.1百万円
委員等旅費 0.2百万円 } を含む

がん医療に特化したがん専門医師、薬剤師及び看護師等の医療人を養成し、がんの横断的・集学的な診療を行う体制の整備を図るための取組を支援。

【公募・補助】

A.大学(全18大学)
2,000百万円

拠点となり、連携する大学・大学病院等との緊密なネットワーク体制を構築することにより、放射線療法、化学療法等を専門的に行う多くの優れた専門家を養成する。

【分担金】

B.連携大学(全76大学)
1,043百万円

申請担当大学と連携して放射線療法、化学療法等を専門的に行う多くの優れた専門家を養成する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

(岡山大学のケース)

A. 岡山大学
153百万円

岡山大学では7大学と連携し、「中国・四国広域がんプロ養成プログラム—チーム医療を担うがん専門医療人の育成—」を実施

【分担金】

B. 連携大学(全7大学)
80百万円

岡山大学と連携して放射線療法、化学療法等を専門的に行う多くの優れた専門家を養成する。

【随意契約・委託】

C. 木村情報技術株式会社
12百万円

Webサーバ管理、eラーニングシステム構築、コンテンツ管理・配信

A.岡山大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
分担金	連携7大学への分担金	80			
人件費	臨床実習指導医師、講習会講師謝金、事務補佐員	22			
委託費	webサーバ管理、e-ラーニングシステム構築、コンテンツ管理・配信業務	12			
消耗品費	書籍・試薬等講義・実習用消耗品、ソフトウェア、事務局運営用消耗品等	10			
印刷製本費	広報用ポスター、パンフレット、報告書等印刷製本費	8			
研修参加費	研修参加費、市民公開講座・セミナー費用等	6			
旅費	外国人招聘等旅費、講演会旅費等	6			
その他	講習会・フォーラム会場使用料、通信運搬費、新聞掲載料等	9			
計		153	計		
B.徳島大学			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
設備備品費	核酸自動精製装置、腹部超音波モデルセット等	12			
旅費	外国人招聘等旅費、講演会旅費等	7			
人件費	臨床実習指導医師、講演会講師謝金、非常勤講師	2			
事業推進費	会場借料、印刷製本費、通信運搬費、消耗品費等	4			
計		25	計		
C.木村情報技術株式会社			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業推進費	eラーニングシステム構築	5			
事業推進費	コンテンツ管理・配信業務	4			
事業推進費	webサーバ管理	3			
計		12	計		
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

事業名: がんプロフェッショナル養成プラン

(支出先ブロックA)

	支出先	支出額(百万円)
1	岡山大学	153
2	北里大学	150
3	大阪大学	146
4	千葉大学	124
5	名古屋大学	113
6	近畿大学	109
7	自治医科大学	105
7	九州大学	105
9	札幌医科大学	100
9	東北大学	100
9	東京大学	100
9	東京医科歯科大学	100
9	順天堂大学	100
9	金沢大学	100
9	京都大学	100
9	鳥取大学	100
	その他	195
	計	2,000

(支出先ブロックB)

	支出先	支出額(百万円)
1	徳島大学	25
2	山口大学	15
3	香川大学	14
4	愛媛大学	9
5	高知大学	9
6	高知女子大学	7
7	川崎医科大学	3
	計	80

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。